

港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

101号

FB 港北区災害ボランティア連絡会

2022年2月

*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください



シミュレーション訓練を振り返って

アクションカードを使って見つけた課題

今年のシミュレーション訓練ではアクションカードを使っての情報班立ち上げを行いました。アクションカードを使ったおかげでスムーズな開設方法が確認できました。またその結果から課題も多く見つけ出すことができました。

ボランティアセンターは自然にはできない、だから

アクションカードとはやるべきこと(アクション)を時系列に分解して、手落ちなく活動を進めていくために、カード化したものをもとに活動する技法です。

今年のシミュレーション訓練ではこの方法で災害ボランティアセンター開設の際に最初に必要となる情報班の立ち上げを試みました。災害ボランティアセンターは自然に出来るわけではありません。立ち上げ部分を訓練しないで、受付訓練などに進む事は現実的ではないのです。その開設にはヒト、モノ、カネが必要です。そして運営には経験があるほうがより被災した市民を効果的に、落ちの無い支援ができるはずです。

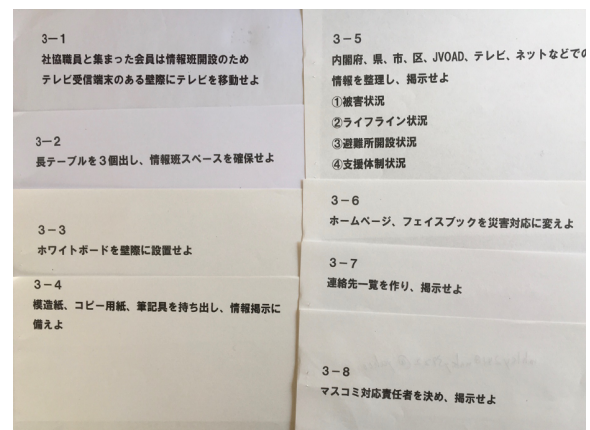
今回はアクションカードを使うことで、災害ボランティアセンターの運営に携わったことがなくてもこのカードの指示通りに行動すれば準備を完了させられることがよくわかりました。

もちろん百点満点で終わった訳ではありません。もう少し細かく指示した方が良い点や、実際には使えないこともわかったなど、多くの改善点が具体的に見えた良い訓練だったと思います。

例えば情報を得るためにはラジオやテレビは必需品です。現在、港北区福祉保健活動拠点3階でモニターとして使っているものはテレビなので、部屋のテレビ端子とつなげば受信できると思ったものの映りません。これは実際に映してみることで初めてわかりました。代替策として取りあえずパソコンで受信する方針を立てましたが、多くの人に見てもらうためには不便だし、パソコンが1台テレビ専用になってしまうのは事務処理上困ると言う次の問題点が出てきます。

今回は必要な手順の確認で終わりましたが、次は改善点を踏まえた設置訓練、そして実際に情報収集と処理の訓練へとグレードアップしていくことが目標になります。

情報班の活動がその後のボランティア活動の内容を決めていくこととなりますから、実働訓練はとても重要なものになっていきます。



アクションカード

その後の動き

1月の定例会では訓練で反省点となった情報班セットを作るためロッカー整理を行いました。これは開設に必要な資機材を1つにまとめ効率よく準備を進めていくために必要だと反省が出たからです。

またアクションカードはロッカーの扉の内側に設置することにしました。万が一の場合はロッカーを開けて、カードを出して、集まったメンバーと協力しながら開設を始められるようにしたいです。

そして今年度災ボラ専用のプリンターと電気ポットを区が購入してくれました。専用プリンターが準備できたおかげで、ボランティアセンターを運営する際の手間を大きく省くことができます。

電気ポットはスタッフのお腹を支える重要な道具です。いざ発災した時場合、ボランティアセンタースタッフへの食料も含めたサポート体制をどうするかは未だ未解決です。ポットの導入を機に過去のボランティアセンターではどのようにしたかを調べていきます。

参加者の感想

- 1、アクションカードの使い方 よくわかった 50% 大体わかった 50%
 - 2、アクションカードの文言 適当だった 60% (〇〇せよ、の文体に反発を感じた方が多かったようだが、これはアクションカードの約束で、しっかり行動してもらうための言葉使いと思われる) 未記入 40%
 - 3、情報班の立ち上げ方 よくわかった 60% 大体わかった 40%
- とアクションカードの効果がよくわかる結果でした。

反省の中では泊まり込みが必要ではないかとの意見もありましたが、私の経験では泊まり込みをした事はありませんし、疲労を溜め込む危険性が高いので避けた方が良いと思います。(宇田川)

満タンのススメ … 燃費のためには満タンはよくないといいますが

もうすぐ、3月11日がやって来ます。11年前のことになり、遠い記憶の中にあるかもしれませんが、あの頃のことを思い出してみてください。

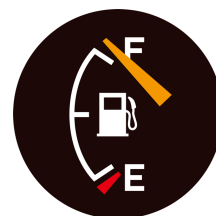
横浜でも、生活に大きな影響が出ました。その1つが「ガソリンが買えないので、車が使えない」でした。ガソリンや軽油が供給されなくなり、ガソリンスタンドの在庫も無くなってしまいました。その結果、生活物資を運ぶトラックも使えなくなり、スーパーやコンビニに品物が入荷しないという事態になりました。当然、一般乗用車もガソリンが空になれば動かなくなってしまいました。この状況が回復するまで、1週間近くあったのではないのでしょうか。

数年前の台風では、千葉県で送電線が被害を受けて停電となり、ガソリンスタンドの給油設備が動かず、給油できないという事態が起きました。地元出身の競輪選手が自転車に手動ポンプを繋いでペダルを踏んでポンプを回して給油したと、報道されました。

また、大規模停電が発生して、ガソリンスタンドが営業できなくなるかもしれません。その時は、給油したくてもできないわけです。そんな事態に備えて「満タンのススメ」です。「ガソリンが高いから給油は控えたい」という方もいらっしゃるかもしれませんが、その高いガソリンが買えなくなる事態が起きるかもしれません。その時に備えて、いつも満タンを心がけてはいかがでしょうか。(岩撫)

(注) イラストは、以下から使用許諾を得ましたが、商用利用はご遠慮ください。

https://www.ac-illustr.com/main/detail.php?id=1549984&word=ガソリンメーター_満タン_円&searchId=1102936042#goog_rewarded



改めて考える「在宅避難」



阪神淡路大震災から27年が経ちました。その3年後1998年に港北区災害ボランティア連絡会は「いざという時に備え、自分たちのまちは自分たちで守ろう」という事から立ち上がりました。

それからさまざまな災害が起きています。被災時に皆さんはすぐ避難所を思い浮かべるとは思います。が、自宅に大きな損傷がなければ「在宅避難」も選択肢となります。自宅で過ごすことは避難所の生活より心身の負担が少なく、現状のようなコロナウィルス感染のリスクをも軽減されるため、高齢者や乳幼児のいる家庭には有効と思われます。自宅の損傷を失くすには、家具類の転倒・落下の防止することも欠かせません。(L型金具、突っ張り棒、ストッパー式器具、粘着マット、ガラス飛散防

災シート などなど)

「在宅避難」を考える時、一番は自宅の備蓄の見直しです。大規模災害では一定期間ライフライン(ガス・電気・水道・交通)の停止が襲ってきます。その代替手段を考えることはとても大事です。ガスや電気の代替えとして、カセットコンロ(予備のカセットボンベ)。水が出なくては、トイレも使用できません。そのためには「トイレパック」も準備したいです。生活するための必要な食料など物品の備蓄も必要です。最低3日分、出来れば1週間分の水と食料があれば安心です。

もし、在宅避難することになった時には、その旨を地域防災拠点へ必ず報告することで、様々な情報を受けることができます。食料の備蓄だけでなく、減災のための準備をしましょう。(付岡)

シリーズ災害食

鶏胸肉のハム



レシピ本によると・・・

サラダやバンバンジーにも使える鶏ハムをパッククッキングで作ります。

鶏肉でタンパク質をしっかり補充!

鶏肉の大きさによって加熱時間は調整してください。食中毒予防のためにも中心部までしっかり火を通しましょう。

作ってみました

固まりで袋に入れるよりも包丁目をいれて少し肉を開くと火の通りがよくなるかも……。胸肉はパサパサ感があるのでゆで

汁は捨てずにソースに使うといいかもしれないですね。99号で投稿したマヨネーズソースを使えばより舌ざわりが滑らかなります。

材料(2人分)

鶏胸肉 1枚
A:砂糖 小さじ 1/2 塩ひとつまみ 粗挽き黒コショウ フレーバーソルト(あれば)

作り方

- 1 鶏肉は皮を取り除く
- 2 ポリ袋に1, Aを入れ、空気を入れて膨らませ、調味料

がまんべんなくつくようにふる

- 3 空気を抜いて袋の上の方で口をしっかり結ぶ
- 4 鍋に湯をわかし、底に皿を敷く 3 を入れ15分ほど加熱する
- 5 火を止めて冷めるまでそのままおく お好みの厚さに切り、器に盛る

出典：クックパッド

防災レシピ BOOK

先人の知恵に学ぶ「防災」・地名は大切なキーワード

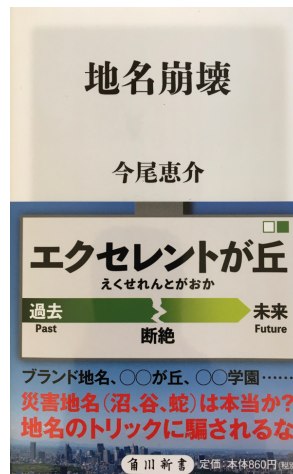
三陸にある「復興地」という地名

大船渡市に綾里という小さな港町があります。ボーイスカウト横浜第8団が東日本大震災の義援金を届けていた町です。そこには「復興地」と呼ばれる高台の狭い住宅地があります。1896年の三陸大津波のあと、綾里の人たちが二度と悲劇に遭わないようにと、住居を移し町を「復興」させた地域です。しかし海に近く便利な「低地」に人がまた住み始め、東日本大震災では全て流されてしまいましたが「復興地」は無事でした。復興地の約1m下まで海水はきたといいます。地名には、先人の知恵が込められていると言えます。(中島)

災害本 「地名崩壊」 今尾恵介著

角川新書 860円

地名はその場所の歴史を端的に表してきました。「日本の地名」の著者谷川健一は「地名は単なる標識の符号ではない。土地の精霊との対話として本書を著した」と書いています。しかし日本の地名は廃藩置県、合併、住居表示法、などが原因で大きく崩れたそうです。合わせて土地開発による商業主義が大きく地名が変えられてきたことが「地名崩壊」で詳しく書かれています。



横浜市北西部などにも多く見られるような最近開発された地域には野や丘のつく地名が多く見られます。田園都市線など土地売却の戦略上、上品に感じられる地名として〇〇野や××台が作り出されたそうです。ですから〇〇台と付いても必ずしも高台を意味しません。近隣の自由が丘もとりわけ高いわけではありません。

東日本大震災以降声高に言われるようになった「災害地名」にもかなりの誤解があると著者は警告します。疑似科学だとさえ言っています。軟弱地盤地名として、窪(久保)、谷、浦、浅、等々が、反対に良好地盤地名としては山、尾、丘、高、森等々をあげられた事例があるそうです。しかし「窪地には窪の付く地名が付けられる」は妥当だが、「窪の付く地名は窪地である」は成り立たない事例を東京都杉並区にある荻窪を例にして説明しています。確かに高校時代まですごした彼の地を思い出しても、とりわけ低さが際立つ場所はありません。しかし似たような説明を災害を研究する学者から多く聞きました。

地名の付けられ方は単純では無いらしく、伝承が必ずしも土地の事実を裏付けているものではないそうです。併せて最近の地名にも見られるキラキラネーム(高輪ゲートウェイ)などや平仮名、カタカナ名が多くなってくるといよいよ訳がわからなくなります。

そんな現在と、過去に刻まれた土地の記憶を覚えてくれる、楽しくて警告に満ちた本です。

(宇田川)

【編集後記】

- 災害時に、ペダルを踏んで給油してくれる救いの神が現れるとは限りません(岩撫)
- 地名から想像して土地の状態を表すとは限りませんが、「沼」「田」などのつく土地は昔、軟弱な土地だった所が多いみたいです。今住んでいる土地の昔を知ることも減災の一つと思います。(付岡)
- 熊本地震の避難所運営のサポートへ行った時、仮設トイレの和式は空いていて、洋式に長蛇の列ができていたことが印象に残っています。(鴨下)
- 横浜市のwebサイトに「災害時のペット対策について」というページがあります。検索してみてください。(室伏)
- 車のガソリンを早めに満タンにしておくこと。これも、ひとつのローリングストックだと思います。(中島)